

発言要旨

2018. 12. 12

増田寛也

1. リチャード・フロリダ「クリエイティブ都市論」

- 新たな産業を創出するためには、クリエイティブな人材が住み、働きたいと思えるような魅力的な都市づくりが必要
- 都市の寛容度・多様性が重要
- クリエイティブクラス（創造階級）
 - ・「スーパークリエイティブコア」
（科学者・エンジニア・建築家・デザイナー・アーティスト等・・・）
 - ・「クリエイティブプロフェッショナル」
（ビジネス・IT・金融・医療・法律等の専門家）

2. 先進国の抱える課題

- 人口減少・出生率の低下
- 高齢化
- 人口の都市集中、過疎地域の拡大
- 貧困、所得格差、教育格差
- 気候変動、災害

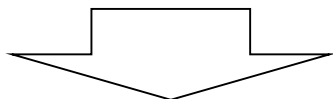
⋮

3. ICTによる諸課題解決 = SDGsの実現

4. クリエイティブ都市（寛容度の高い都市）の創出

Society5.0進展における都市・圏域への影響

- 人々の日常的行動を支える空間・施設・インフラの重要度は低下する
- 情報入手量・範囲等が拡大することによって交流の範囲は拡大する
- 企業は、世界的なレベルで開発や調達が進む
- 新しい産業(事業)が創出されるとともに、グローバルな取引が深化する
- バーチャル情報(データ)を活用し、付加価値創出に貢献できる空間・インフラの重要性が高まる
- デジタル(アナリティクス)人材に加え新しいサービスを構想する力を育むことが必要となる



地域に与えるインパクトを踏まえた対策が必要

新たな産業を創出するためには、クリエイティブな人材が住み、働きたいと思えるような魅力的な都市づくりが必要。その際の重要な視点が「都市の寛容度・多様性」。

- リチャード・フロリダは、寛容度の高い都市ほど、クリエイティブクラスの集積度、ハイテク産業の集積度、イノベーションが生まれる確率が高いこと、すなわち、マイノリティに対する寛容性と経済成長との間に強い相関があることを実証。

リチャード・フロリダによるクリエイティブ都市論

“クリエイティブクラス(創造階級)”

新しいアイデア、技術、コンテンツを創造することができる人材

- 「スーパークリエイティブコア」(科学者、エンジニア、建築家、デザイナー、アーティスト等)
- 「クリエイティブプロフェッショナル」(ビジネス・IT・金融・医療・法律等の専門家)

こうした人材は「寛容度の高い都市」に引きつけられる

“寛容度の高い都市”

よそ者を排除せず、多様な文化や価値感を受け入れる寛容性に富んだ都市

- 「ゲイ指数」(人口に占めるゲイ人口の割合)
- 「ボヘミアン指数」(人口に占める作家、デザイナー、ミュージシャン、俳優、アーティスト等の割合)
- 「メルティングポット指数」(人口に占める外国生まれ人口の割合)

外国生まれの起業人材：
グーグル：セルゲイ・ブリン（ロシア）
ホットメール：サビール・バティア（インド）
サンマイクロシステムズ：ビノッド・コースラ（インド）

こうした人材の誘致に成功した都市が新たな産業を生み、経済的にも発展

参考)リチャード・フロリダ、井口典夫訳『クリエイティブ資本論—新たな経済階級の台頭』(ダイヤモンド社、2008年)